鳴門教育大学附属中学校

学校関係者評価報告書

（平成２７年度）

平成２８年３月

学校関係者評価委員会

目　次

Ⅰ　学校関係者評価委員会が実施した学校評価について
1．はじめに ---------- 2
2．評価の目的 ---------- 2
3．評価のスケジュール ---------- 2
4．学校関係者評価委員会委員 ---------- 3
5．本評価報告書の内容 ---------- 3
6．本評価報告書の公表 ---------- 3

Ⅱ　学校関係者評価結果
1．総合評価 ---------- 4
2．評価項目ごとの評価
（1）評価項目１「社会に生きて働く思考力等の育成」---------- 4
（2）評価項目２「いじめの防止」 ---------- 5
（3）評価項目３「キャリア教育の推進」 ---------- 6
3．保護者対象学校評価アンケート分析 ---------- 8
4．全国学力・学習状況調査分析 ---------- 9

参考：学校の現況及び目的 ---------- 10

Ⅰ　学校関係者評価委員会が実施した学校評価について

1．はじめに

本報告書は、保護者、学校評議員、大学教員、地元の企業経営者で構成された学校関係者評価委員会が、鳴門教育大学附属中学校の教育活動の観察や校長等との意見交換等を通じて、附属中学校の自己評価の結果について学校関係者評価を実施し、その結果を報告書として取りまとめたものである。

2．評価の目的

学校評価の目的は、

① 学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること

② 学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること

③ 学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること

である。

このような学校評価において学校関係者評価は、自己評価の結果を評価することを通じて、

① 自己評価の客観性・透明性を高めること

② 学校・家庭・地域が共通理解を持ち、その連携協力により学校運営の改善に当たること

を期待して実施されるものである。

※ 参考 文部科学省（2010）「学校評価ガイドライン〔平成22年改訂〕」

3．評価のスケジュール

時　期	内　　容
27年 7月	第1回学校関係者評価委員会（委員長の選出、評価項目等の確認）
27年 9月	文化祭参観、校長との意見交換
27年11月	オープンスクール参観、校長との意見交換
28年 3月	第2回学校関係者評価委員会（評価報告書のまとめ）

４．学校関係者評価委員会委員

○ は委員長（平成 28 年３月現在）

中山　誠	元保護者会会長 元全国附属学校PTA連合会総務委員長
手束　直胤	元附属中学校学校評議員 本校卒業生
○　阿形　恒秀	現鳴門教育大学教授　元大阪府立布施高等学校校長 元大阪府教育委員会事務局教育振興室高校改革課首席指導主事
稲木　紀彦	元附属幼稚園学校評議員　元保護者会会長 (株)トクジム代表取締役社長

５．本評価報告書の内容

本評価報告書の「Ⅱ 学校関係者評価結果」では、

評価項目１「社会に生きて働く思考力等の育成」

評価項目２「いじめの防止」

評価項目３「キャリア教育の推進」

における全ての観点の内容を総合的に判断し、学校の教育活動・学校運営全体に関する総合評価を

Ａ 十分達成されている

Ｂ 達成されている

Ｃ 取り組まれているが、成果が十分でない

Ｄ 取組が不十分である

の４段階評価で記述している。

さらに、３つの評価項目についても、各項目で同様の４段階評価で記述し、主な「優れた点」「改善を要する点」を併せて記述し、総合評価の根拠・理由を示している。また、「保護者対象学校評価アンケート」と「全国学力・学習状況調査」の結果に関する分析についても記述している。

なお、「参考」として、自己評価書に掲載されている「学校の現況及び目的」を転載した。

６．本評価報告書の公表

本報告者は、本評価報告書を鳴門教育大学に提供するとともに、設置者に提出する。また、ウェブページ（ http://www.naruto-u.ac.jp/schools/06/004.html ）への掲載により、広く社会に公表する。

Ⅱ　学校関係者評価結果

１．総合評価

鳴門教育大学附属中学校学校関係者評価委員会は、
評価項目１「社会に生きて働く思考力等の育成」
評価項目２「いじめの防止」
評価項目３「キャリア教育の推進」
の内容を総合的に判断し、４段階評価中の「**Ａ 十分達成されている**」と評価する。

この評価に至った根拠・理由については、以下の「２．評価項目ごとの評価」において述べる。さらに、評価項目ごとに、主な「優れた点」「改善を要する点」をまとめ、達成度を総括する。

２．評価項目ごとの評価

（１）評価項目１「社会に生きて働く思考力等の育成」

評価項目１について、以下に示したように、全ての教科において思考力等を育む教育実践を展開したことにより、「知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力などの育成を重視し『生きる力』を育む」という学習指導要領の理念を的確に具現化しており、大いに評価できる。したがって、学校の自己評価では４段階評価中の「Ａ 十分達成されている」と判断されているが、学校関係者評価としても、４段階評価中の「**Ａ 十分達成されている**」と評価する。

【学校の取組】

平成 19 年に改正された学校教育法では、学校教育の目標を達成するために、「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない」と示された。これを踏まえ、附属中学校では、平成 20 年度以降、「思考力・判断力・表現力を育む授業の創造」「社会に生きて働く思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業の創造」を研究主題として、実践・研究が展開されてきた。そして、平成 27 年度も引き続き、多様で困難な課題を適切に解決することができる力として、社会に生きて働く思考力・判断力・表現力を育成する実践・研究に取り組んだ。

【優れた点】

① 国立教育政策研究所の研究指定校事業を受託し、各教科が連携しながら学校全体で思考力等の育成に取り組み、先進的な取組のモデルを示している。
＊単元について、「生徒が自ら課題を設定して進める学習活動」のための工夫に取り組んでいる。
＊目標・指導・評価の一体化について、「課題を解決するための見通しを立てる活動」「学習を振り返る活動」のための工夫に取り組んでいる。
＊学習方法について、「教科の連携による教育活動」「ペア学習・グループ活動による教育活動」などの工夫に取り組んでいる。

＊教材・教具について、「ラミネートした紙資料での説明」「付箋等で学びを可視化するワークシート活用」などの工夫に取り組んでいる。

＊可動式電子黒板・書画カメラ・タブレット端末等のICT機器の効果的な活用に取り組んでいる。

② 保護者対象アンケートにおける、評価項目１「社会に生きて働く思考力等の育成」に関する質問の回答では、学校の取組が支持されている。

＊「先生は生徒が考えたくなる課題を設定している」という質問に対する肯定的回答（“よく当てはまる”と“当てはまる”の合計、以下同様）は、第１回アンケートでは88.8%、第２回アンケートでは90.9%となっている。

＊「先生はプロジェクター等のICT機器を活用している」という質問に対する肯定的回答は、第１回アンケートでは87.8%、第２回アンケートでは92.7%となっている。

＊教職員対象自己申告による目標管理で、「学習指導」の自己評価は、全員がＡまたはＢ（Ａ７名、Ｂ14名）となっている。

③ 全国学力・学習状況調査の知識・活用問題における平均正答率が、ともに全国国立中学校の平均正答率を上回っている。

【改善を要する点】

① 「各教科で育成する思考力」等と「社会に生きて働く思考力」等の関係を整理しつつ、また、附属小学校との小中連携による取組も取り入れて、主体的に学習に取り組む態度を養う授業の実践・研究をさらに展開されたい。

② 授業準備等に必要な教員の労力が大きいようなので、校務の整理や校務の情報化（ICTの活用等による効率的な校務処理と成果物の共有化）による教員のゆとり確保に努められたい。

（２）評価項目２「いじめの防止」

評価項目２について、以下に示したように、いじめに関するアンケート調査等を活用して、学校をあげていじめの防止・早期発見・対処に組織的に取り組んでおり、評価できる。したがって、学校の自己評価では４段階評価中の「Ｂ 十分達成されている」と判断されているが、学校関係者評価としては、４段階評価中の「Ａ 十分達成されている」と評価する。

【学校の取組】

附属中学校では、平成25年６月に公布された「いじめ防止対策推進法」を踏まえ、平成26年３月に、「附属中学校いじめ防止基本方針」を定め、いじめの防止・早期発見・対処に組織的に取り組んでいる。また、いじめに関するアンケート調査等の結果を分析し、学校のいじめ防止対策の検証を行っている。

【優れた点】

① 言語活動やグループ活動を充実させ、日常的に人間関係が良好に保てるように取り組んでいる。

＊授業・学級活動・生徒会活動等において相互のコミュニケーションを深める活動を積極的に取り入れるとともに、あいさつ運動、「なかよしの木」の活動（友達のよいところを見つけ貼り出す取組）などを展開している。

＊学級活動や道徳の時間において、よりよい自己表現を身につけることを目的とした「アサーショントレーニング」を実施している。

＊スクールカウンセラーと連携し、鳴門教育大学生徒指導支援センターが開発した教材を活用したＴＴ授業を実施している。

＊メールやライン等の問題点に気づくことを目的に、ロールプレイや疑似体験を取り入れた授業を実施している。

② 保護者対象アンケートにおける、評価項目２「いじめの防止」に関する質問の回答では、学校の取組が支持されている。

＊「生徒は楽しい学校生活を送っている」という質問に対する肯定的回答は、第１回アンケートでは93.8%、第２回アンケートでは94.8%となっている。

＊「生徒は互いに相手の思いや立場を踏まえて会話している」という質問に対する肯定的回答は、第１回アンケートでは85.8%、第２回アンケートでは84.6%となっている。

＊教職員対象自己申告による目標管理で、「生徒指導」の自己評価は、ほとんどの教員がＡまたはＢ（Ａ４名、Ｂ16名、Ｃ１名）となっている。

③ 生徒対象生活アンケートにおける「無視・仲間はずれ・悪口」の項目が、昨年度より減少している。

【改善を要する点】

① 生徒対象生活アンケートにおける「軽い暴力・持ち物に対するいたずら・ネット上のいやがらせ」の項目が、昨年度より少し増えているので、その点について分析を行い、次年度の指導に活かされたい。また、「無視・仲間はずれ・悪口」の項目と合わせて、統計的な数値の変動に留意しつつも、その変動だけに注目するのではなく、「いじめはどこにでもある」という視点に立って日々の集団づくりを進め、“いじめをなくす”という対策的取組から“豊かにつながる”という教育的取組へと、さらに指導を深めていっていただきたい。

② 道徳教育や人権教育、情報モラル教育に関する教員の理解の充実に向けて、教員研修の充実を図られたい。

（３）評価項目３「キャリア教育の推進」

評価項目３について、以下に示したように、「学校や家庭や地域社会の中で、自分の役割を果たしながら将来に夢をもって生きる生徒の育成」に取り組んでおり、評価できる。したがって、学校の自己評価では４段階評価中の「Ｂ 十分達成されている」と判断されているが、学校関係者評価としては、４段階評価中の「Ａ 十分達成されている」と評価する。

【学校の取組】

平成23年１月の中央教育審議会の答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」において、キャリア教育は「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義されている。附属中学校では、これを踏まえて、高校進学に焦点を合わせた従来型の進路指導からの転換を図り、キャリア教育目標として「学校や家庭や地域社会の中で、自分の役割を果たしながら将来に夢をもって生きる生徒の育成」を掲げ、現実の社会を学ぶ活動等を取り入れながら、キャリア教育の推進に

取り組んでいる。

【優れた点】

① 目指す生徒像として、「自分の役割を果たしながら将来に夢をもって生きる生徒」を掲げ、職場体験学習の充実、日々の係活動の徹底に向けた指導を進めている。

＊パプアニューギニア教員との交流学習や、幼児との触れ合い体験などを通じて、「かかわる力」（他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする人間関係形成・社会形成能力）の育成を図っている。

＊３日間の職場体験学習を実施し、働くことの大切さ、責任感を学び、社会の一員としての在り方を考えさせるとともに、体験した内容についてのポスターセッションによる発表を通じて、「みつめる力」（自分の言動が相手や他者に及ぼす影響が分かる自己理解・自己管理能力）の育成を図っている。

＊県内各高校で実施される体験入学への参加や附属中学校での高校説明会を通じて、「えがく力」（進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分の目指すべき将来を暫定的に計画するキャリアプランニング能力）の育成を図っている。

＊校外学習でのお接待体験を通じて、「かかわる力」（人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を養う人間関係形成・社会形成能力）の育成を図っている。

＊学級活動や清掃などに係って、役割の明確化と係活動の徹底を目標とし、「かかわる力」（リーダーとフォロアーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら仕事をする人間関係形成・社会形成能力）、「すすむ力」（自分の役割やその進め方、よりよい集団活動のための役割分担やその方法等が分かる課題対応能力）、「えがく力」（日常の生活や学習と将来の生き方との関係を理解するキャリアプランニング能力）の育成を図っている。

② 保護者対象アンケートにおける、評価項目３「キャリア教育の推進」に関する質問の回答では、学校の取組が概ね評価されている。

＊「自分の子どもは家庭で手伝いなどの役割を果たしている」という質問に対する肯定的回答は、第１回アンケートでは70.1%、第２回アンケートでは70.0%となっている。

＊「先生は生徒の長所を認め指導を行っている」という質問に対する肯定的回答は、第１回アンケートでは89.0%、第２回アンケートでは90.6%となっている。

＊教職員対象自己申告による目標管理で、「生徒指導」の自己評価は、ほとんどの教員がＡまたはＢ（Ａ３名、Ｂ17名、Ｃ１名）となっている。

③ 全国学力・学習状況調査の生徒質問における「自分にはよいところがある・将来の夢や目標がある」に関する項目の評価が高い。

【改善を要する点】

① 生徒対象生活アンケートにおける「自分なりのよさがある」に関する項目が、６月の評価から若干低下しているが、その点について分析を行い、次年度の指導に活かされたい。

② あいさつ、清掃、時間厳守等については、十分にできていない生徒が一部に見られるとのことなので、単に役割をこなすだけではなく、凡事徹底の大切さの意味を考えさせる指導の工夫にも取り組まれたい。

３．保護者対象学校評価アンケート分析

平成 27 年 12 月 10 日～18 日に実施された、附属中学校の平成 27 年度の重点目標

① 社会に生きて働く思考力等の育成（10 項目）

② いじめの防止（11 項目）

② キャリア教育の推進（８項目）

に関する平成 27 年度第２回保護者対象学校評価アンケート（有効回答者数 395 人）の結果を総括する。

アンケートは、各項目について、「よく当てはまる」「当てはまる」「当てはまらない」「全く当てはまらない」から選び答える形式である。以下の数値の「肯定的回答」とは、「よく当てはまる」「当てはまる」の計を示している。

調査にあたって、学校は、保護者に子どもと話し合った上での回答を依頼しているが、全 29 の調査項目のうち 26 項目で肯定的回答が 80%を超えており、生徒・保護者とも、本年度の重点目標を概ね達成できていると評価していることがうかがえる。

① 社会に生きて働く思考力等の育成

「先生は楽しい授業となるよう工夫している」… 肯定的回答 95.8%

「先生は生徒が考えたくなる課題を設定している」… 肯定的回答 90.9%

「先生は，生徒同士で協議したりする学習を多く取り入れている」… 肯定的回答 98.2%

「先生はワークシートや板書を工夫している」… 肯定的回答 94.8%

「先生は実験・実習・実技を充実させている」… 肯定的回答 94.5%

「先生はプロジェクター等の ICT 機器を活用している」… 肯定的回答 92.7 %

「先生は一人一人の生徒の学習状況を理解しようとしている」… 肯定的回答 81.8%

「先生は生徒からの質問や相談に適切に対応している」… 肯定的回答 91.6%

「生徒は自ら学ぼうという意欲をもっている」… 肯定的回答 89.8%

「生徒は新聞記事やニュース報道に興味をもっている」… 肯定的回答 76.5%

② いじめの防止

「先生は学活や道徳の授業を工夫している」… 肯定的回答 91.2%

「先生は話し合い活動やグループ活動を充実させている」… 肯定的回答 96.9%

「生徒は互いに相手の思いや立場を踏まえて会話している」… 肯定的回答 84.6%

「生徒は楽しい学校生活を送っている」… 肯定的回答 94.8%

「学校は落ち着いて学習に取り組める雰囲気がある」… 肯定的回答 86.7%

「学校は保護者が先生に相談できる雰囲気がある」… 肯定的回答 83.0%

「学校は生徒が先生に相談できる雰囲気がある」… 肯定的回答 81.5%

「学校は、教師と生徒、生徒相互の人間関係が円滑である」… 肯定的回答 85.9%

「家庭で相手の立場に配慮した言動を指導している」… 肯定的回答 96.4%

「家庭で携帯電話等を使用するルールを決めている」… 肯定的回答 87.6%

「自分の子どもは家庭で学校の様子を話している」… 肯定的回答 83.4%

③ キャリア教育の推進

「先生の言葉遣いやマナー、電話などでの対応はよい」… 肯定的回答 99.0%

「先生は生徒の長所を認め指導を行っている」… 肯定的回答 90.6%

「先生は委員会・係活動や清掃活動を熱心に指導している」… 肯定的回答 90.9%
「生徒はあいさつができている」… 肯定的回答 92.7%
「生徒は交通ルールやきまりを守っている」… 肯定的回答 87.0%
「自分の子どもは朝学校が始まる5分前には登校している」… 肯定的回答 95.3%
「自分の子どもは物を大切に扱い、整理・整頓ができている」… 肯定的回答 68.8%
「自分の子どもは家庭で手伝いなどの役割を果たしている」… 肯定的回答 70.0%

4．全国学力・学習状況調査分析

平成27年度の全国学力・学習状況調査の結果では、国語・数学・理科のいずれの教科においても、（国語・数学に関しては、「主として『知識』に関する問題（A）」「主として『活用』に関する問題（B）」いずれも）、鳴門教育大学附属中学校の平均正答率は、全国国立中学校の平均正答率を上回っており、学力育成の成果があがっていることがわかる。また、相対的に平均正答率が低かった問題に関連する能力を伸ばすための授業を考案し実施するなど、学校は全国学力・学習状況調査の結果を有効に活用して、授業改善・学力伸長に取り組んでいる。

参考　学校の現況及び目標

1　現況

(1) 学校名　鳴門教育大学附属中学校

(2) 所在地　徳島市中吉野町１丁目31番地

(3) 学級等の構成

　１学年　４学級　　２学年　４学級

　３学年　４学級　　計12学級

(4) 生徒数及び教員数(平成27年５月１日)

　生徒数 461人　教員数 23人（正規教員）

2　目標

(1)目的・使命

本校の目的は，附属中学校校則第１条において「小学校における教育の基礎の上に，心身の発達に応じて，義務教育として行われる普通教育を施すとともに，鳴門教育大学（以下「本学」という。）における生徒の教育に関する研究に協力し，かつ，本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする」と定めており，本校は義務教育を行う任務とともに，教員養成大学の附属中学校として，次のような使命をもった学校である。

①大学と一体となって，教育の理論及び実践に関する科学的研究を行う研究学校としての使命

②鳴門教育大学の学部学生の実地教育（教育実習）及び大学院生との教育実践研究等を行う使命

③教育界の課題の解明に努め，関係機関と連携し，本県中学校教育推進に寄与する使命

(2)教育目標

本校は，校則第１条に示されている中学校教育の目的の達成のため，次の教育目標を掲げ，めざす生徒像・教師像・学校像を明確に示している。

知・徳・体の調和的人格の完成をめざし，自主・自立の精神，創造的能力，豊かな人間性をそなえ，国際社会の発展に寄与することのできる心身ともにすこやかな中学生を育成する。

めざす生徒像

○目標を持ち，自主的，創造的に学ぶ生徒

○強靭な意志と体をもち，たくましく生き抜く生徒

○優しく思いやりの心をもち，人につくす生徒

めざす教師像

○生徒を愛し，生徒とともに伸びる教師

○強い使命感，鋭い教育観をもった教師

○優れた指導力をもった教師

めざす学校像

○創造的な知性を磨く学問学校

○情熱的な意志を鍛える鍛錬学校

○強健な身体を練る体育学校

○敬和奉仕の精神に生きる人間学校

(3)平成２７年度重点目標（実践事項）

① 社会に生きて働く思考力等の育成

　ア 単元・題材の工夫・改善や目標・指導・評価の一体化

　イ 学習方法の工夫や教材・教具の開発

　ウ ＩＣＴ機器の効果的な活用

② いじめの防止

　ア 言語活動やグループ活動の充実

　イ 短学活や道徳の時間の工夫

③ キャリア教育の推進

　ア 目指す姿や付けたい力の具体化と振り返り

　イ 役割の明確化や係活動の徹底

(4)平成２７年度評価項目（評価指標）

① 社会に生きて働く思考力等の育成

　ア 保護者対象アンケート（７月と12月に実施）

　　「先生は生徒が考えたくなる課題を設定している」

　　「先生はＩＣＴ機器を活用している」

　イ 教職員対象自己申告による目標管理（２月）

　　「学習指導」

② いじめの防止

　ア 保護者対象アンケート（７月と12月に実施）

　　「生徒は楽しい学校生活を送っている」

　　「生徒は相手の思いを踏まえて会話している」

　イ 教職員対象自己申告による目標管理（２月）

　　「生徒指導等」

③ キャリア教育の推進

　ア 保護者対象アンケート（７月と12月に実施）

　　「自分の子どもは家庭で役割を果たしている」

　　「先生は生徒の長所を認め指導を行っている」

　イ 教職員対象自己申告による目標管理（２月）

　　「学級経営・学校運営・その他」